



2025 VERDY GUIDE

VOL.
07
08.23-09.20



**YUAN
MATSUHASHI**

MIDFIELDER 19

©A.KONDO

MATCH INFORMATION	8/23 (土) 19:00 J1第27節	EMC DAY2025 杉並区ヴェルディ応援 DAY	VS	サンフレッチェ 広島	9/20 (土) 18:00 J1第30節	中央高等学校 GREEN DAY	渋谷区 ヴェルディ応援 DAY	VS	ファジアーノ 岡山

NICIGAS	MJS	classmethod	グッドコムアセット	BRI GROUP	SUPER SPORTS XEBIO GROUP	ATHLETA	TOKYO GREEN							
松竹	A3 GROUP	e'grand	ADELPHOS INC.	明治安田	リコーリース	ISARC	APEST	infomart	YOSHIMASU	東日本銀行	TOSHIBA	EMC	NHOSA	
江戸幕人形焼	パナソニック	シェア管理 部	三井物産	GCC	中央高等学校	消防団	OOO	Metoree	大木組	YELL	CHORI	NEXT ONE	GLC	
住まいのライフ	濱坂電機	TOTAL	CO-ROSDRUM	HIKAL KANZAI	Coca-Cola	Apparel	GLOBAL INNOVATIONS	LIZYSE	GOODWORKS	LaLaport	Damen	EM	クリア	Well-Beings
日産緑化	coop deli	Chateau Life	ZEROUM	Hibrid-Turf	jfa	新都市エージェンシー	J-SOCIETY	多摩モビール	FABRIC TOKYO	FIGHTING ROAD	KYASUDA	WHOLE EARTH	DUARIG	
金栄 バルタイズ	TELCOM	OGA BREWING	ニチバン	前田製菓株式会社	Little Planet	CITY ACCESS	OCTAWELL	PROMOTOOL						

「僕がチームを勝たせる 強くなったのはその意識」

SC相模原、レノファ山口FCへの期限付き移籍から
復帰して2年目のシーズン。

松橋優安の存在感が増している。

先発出場を続ける彼に、いまの思い、
そして今後の展望を聞いた。

取材日:8月21日

©A.KONDO

サッカーへの感謝を持ちながら

——午前中の酷暑下のトレーニングが続いていますね。いかがですか。
「日に日に暑さを感じていますが、中でもこうしてサッカーのトレーニングができてるのはありがたいことですね。その（ありがたいという）気持ちは常に持つようにしています。サッカーを楽しむことと、サッカーへの感謝を毎日持ちながらサッカーをしようと思っています」

——その思いは以前から持っていたのですか。
「いえ、全然…（苦笑）。アカデミー時代はただただサッカーが楽しくて、何も考えずにやっているような感覚でした。プロになってから、いろいろな壁にぶち当たって、なかなかチームが決まらないこともありました。悩んだ経験があったからこそ、いまこうしてチームに所属して、当たり前のようにサッカーができていることに対して感謝の気持ちを持てるようになりました。悩んだ経験も、いま思うといいものだったと感じています」

——その考えを23歳という年齢で感じているのはすごいことだと思います。では、チームの現状についてどう感じていますか。
「まず、サッカーの内容が良くなってきています。ヴェルディはJ1に戻って2年目で、J1のチームを相手に通用する部分が増えてきているとは思います。その反面、自分たちが大事にしないといけない、全員が守備をして、全員で攻撃するという根本の部分は、もう一度昨季に匹敵する熱量を全員が持たないといけないと感じています」

——相手もあることですし、同じことをやっていてもいけない。
「はい。それが2年目の難しさです。でも、自分たち次第だと思っています。昨季と同じような結果が出ていなければ、それと比べられてしまうのは仕方のないこと。だからこそ、自分たちに矢印を向けてやり続けるしかありません。通用している部分に関しては自信を持ちながら、もう一度自分たちが大事にしてきた部分を思い出して、突き詰めていきたいと思っています」

——昨季は、8月下旬から4連勝を達成しました。この時期にいい印象はありますか。
「夏だから、ということよりも、全員が毎日の練習をやり切っているという自信があることが前提ですが、確かにこの時期から結果がついてきたイメージはあるかもしれません。間違いなく、今季に関してもチーム全体での積み上げがあります。移籍でチームを離れた選手もありますが、新しい選手も入ってきました。その中でも、もともと在籍している選手の成長が大事です。その意味でも、全員が成長していますし、ここからよりいい結果につなげていきたいと思っています」

——そして迎える広島戦です。相手の印象は？
「昨季から勝てていない相手（公式戦4試合で全敗）です。システムが同じミラーゲームになると予想される中で、相手はリーグの中でもクロス数が多いチームです。最近、クロスから失点を喫してしまっているので、対応を突き詰める必要があると思います。そこまで相手のことを意識する必要はないですが、勝てていない広島に勝利することができれば、大きな自信になりますし、いいきっかけになることは間違いないので、しっかりといい準備をしています」

——ウイングバックを務めることの多い松橋選手にとっても、サイドの攻防はポイントになる部分ですね。
「まず、1対1で自由にやらせないことが大事です。クロスを上げる相手に対して1歩でも寄せて、利き足を消しながら守備をする。相手に自由な状態でクロスを上げさせないことが第一です」

——そのあとに控える岡山戦に関してはいかがでしょうか。
「岡山は今季が初めてのJ1になっていますが、前線の選手から

後ろの選手まで、本当に全員が頑張って守備をして、一丸となって戦っている印象があります」

——東京Vと似ている印象もあります。
「そう思います。状況や戦い方を含めて、昨季の自分たちに似ていると感じます。その相手に対して、自分たちがさらに上回っていけるようにすることが必要です。前回の対戦ではシャドーの位置で出場しましたが、攻撃面でのよいイメージも残っています。自分の質を上げればアシストができそうなシーンもありました。そのイメージを持ちつつ、さらに積み上げてきた部分をホームで見せられるようにしたいです」

自信を持ってプレーできている

——松橋選手は、先発出場が続いています。ご自身の現状についてどう感じていますか。
「スタメンで出させてもらって、ゴールに向かって自信を持ってプレーできる部分は増えてきています。『これは通用する』と感じるプレーも増えました。その上で、数字という結果を残せるようにやり続けたいですし、出場時間ももう少し延ばしていけるようにしたいです。それがいまの自分の課題と感じています。
ヴェルディに戻ってきた昨季から、サイドバック、ウイングバック、シャドーやボランチまで、いろいろなポジションをやらせてもらったことがプラスに働いています。同じポジションの先輩、それにスタッフの方々が真摯に自分に向き合ってくれたことが大きかったです。トップ昇格してから期限付き移籍でほかのチームに行って、多くの選手とプレーできこともそうです」

——吸収する力があるということですね。
「はい。それは意識しています。アドバイスを聞きにいて、それを自分で試してみる。もちろん合わないものもあるので、試行錯誤しながらいまもやり続けています」

——そうした姿が、昨季の終了後に城福監督が「チームの象徴的な選手」として松橋選手を挙げたことにもつながると思います。J1昇格プレーオフから上がってきたチームが6位という結果を残した。その姿が松橋選手と重なった、と。
「そう言っていたことは覚えています。記事も書いていただきましたし、両親からも言われました。素直にうれしかったです。難しい状況からシーズンインした中での1年間が報われたと感じた瞬間でした」

——そして迎えた今季は、昨季とは違う感覚だったのだと思います。
「まず、自分の立ち位置が違いました。このチームを勝たせないといけないという自覚が生まれた状態でのシーズンインでした。始動前から、いい準備ができていた感覚がありました。今季はよりスタートが大事だなと思っていたので、昨季とは違うメンタリティでシーズンインできましたし、コンディションはキャンプからずっといいです」

——開幕戦では先発しましたが、その後は第15節を除くと第23節までベンチスタートが続きました。
「先発の立場から外れると、普段の練習では全体練習が終わったあとに行われる、あまり試合に関わっていない選手たちでやる“エクストラ”という練習に参加することになります。そこでは質と強度が求められます。その度合いは昨季よりも増していて、そこでやり続けた結果が、いま先発のピッチに立ったときの自信につながっていると思います」

——一方で、悔しさやもどかしさもあったのでは？
「ここ最近、先発で出られるようになって思うのは、途中出場という立ち位置に甘えていた部分があったということです。バトンを受け取る途中出場という立場を全うしようという思いが強かったので、もっとどん欲に、スタメンを奪いにいく気持ち、スタートから

出てチームを勝たせるんだという意識が足りなかったと感じます」
——途中出場の役割を全うすることも大事だとは思いますが…？
「間違いなく大事です。最後まで出し切るという姿が求められます。でも、その役割を全うするのは当たり前のこと。レギュラーとなって活躍する気持ちを持ち続けなければならないとあらためて思いました」

——では、いま伸ばさないといけないと感じている部分はありますか。
「ゴールに近づくプレーは増えてきているので、結果を残してチームの勝利につなげることです。守備の部分も、1対1でクロスを上げさせないことやもう1歩寄せること。それは自分だけでなく、チームとしても伸ばさないといけない部分です。個人的には、最後まで強度を保って走り切るフィジカル面に課題を感じているので、レベルアップしていかないとはいけません」

——この夏、試合に出ていた4人の選手がほかのチームに移籍しました。特に同じサイドのポジションを務めていた翁長聖選手には多くの影響を受けましたか。
「学んだものは相当多かったです。僕がスタメンで出られるようになったタイミングと移籍の時期が重なったこともあり、立ち振る舞いを含めて、最後に吸収できた部分は大きかったです。加えて、『僕が勝たせるんだ』という自覚もより強くなりました。今度は自分がチームに還元する番だと思います」

——コンディションを整えるために、意識していることはありますか。
「しっかりと1日3食を食べること。個人的なトレーニングもジムに行ってやっています。それと最近、一人暮らしを始めて、自炊もするようになりました。山口時代にも一人暮らしだったので簡単な料理はできます。得意料理ですか？ 鳥の照り焼きは自分で食べてもおいしいと思います。一人暮らしになって練習場に近くなったことで、移動の時間が短くなってそのぶんをほかの時間に費やせるのもプラスです」

自分が育ったクラブで活躍したい

——では、松橋選手が抱くヴェルディへの思いも伺えますか。
「小学生のころからこのクラブでプレーして、ずっとヴェルディで活躍したいと思ってやってきました。プロになることはできましたが、うまくいかないことが多くて、ほかのチームも経験しました。それでも、やっぱりヴェルディで活躍したいという気持ちがありました。でも、なかなか結果が出せていなかったのもそのイメージを自分の中で持てなかったのも事実です。実際に戻ってきて、『今年がダメだったら職を失うかもしれない』という中で覚悟を決めて、すべてを前向きにとらえてやり続けたことで這い上がることができました。結果的に、自分が育ったクラブでいまピッチに立てている。それは本当にありがたいことで、感謝しかありません。自分がやり続けてきてよかったとも思います」

——アカデミーで1学年先輩の綱島選手は日本代表に入り、『ヴェルディから世界へ』という海外移籍を体現しました。今後のキャリアの展望はありますか。
「自分が育ったクラブで、J1というカテゴリーで活躍したい。結果を残したいという気持ちが強いです。その先に、ツナくん（綱島）のように代表、海外が見えてくると思います。身近にそうした選手がいたことで、自分もやり続ければそこを目指せるんだとより一層思いました。まずはこのクラブで結果を残すことにフォーカスしてやり続けたいです」

松橋 優安（まつはし ゆあん）

2001年10月27日生まれ、23歳。神奈川県厚木市出身のMF。高尾ジュニアサッカークラブ→東京Vジュニア→東京Vジュニアユース→東京Vユースを経て20年にトップ昇格。21年8月から22年まで相模原、23年は山口に期限付き移籍して、24年に復帰した。昨季はJ1で30試合に出場して1得点。J1通算53試合出場1得点、J2通算63試合出場2得点。J3通算20試合出場4得点。

